

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年10月号 通巻10号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

今日もどこかで柿食うタヌキ

タヌキは果物が大好き



左＝フンの中やためフン場から回収したカキノキの種子。しわがあるのは水洗い後に乾燥させたため。

右＝ためフンの写真。訪れる頭数が少ないので、大きなためフン場にはならない。茶色に見えるのがカキノキの種子。

(2008年撮影)

タヌキは動物性も植物性も食べる雑食です。でも何でもかんでも食べるのではなく、やはり好みの傾向があります。タヌキが大好きなもののひとつは果物です。ちょうどこれから柿の季節ですが、タヌキはもちろん柿が大好きです。ちなみに、樹木である柿は和名では「カキノキ」と呼ばれています。学問上ではこれが正しい名前です。

今もあちこちにカキノキが

東京のような都会には緑は少ないものと思われがちです。まして、カキノキがそうあちこちにあるはずがない。そう決めつけられることも多いでしょう。

ところがタヌキの秋のフンを調べてみると、カキノキの種子が高い確率で見つかります。周辺地域を調べてみると、何ヶ所もカキノキを見つかることができました。柿の実はとてわかりやすい大きさで色ですので、簡単に見つかります。ちょっとした庭のある民家には樹木があることが多いのですが、その中にカキノキ

がある割合は意外と高いのかもしれない。これらのカキノキの内、どれをタヌキが利用したのかわかりません。しかし、タヌキがカキノキがある場所を知っているのは確かです。これらの民家を毎晩巡回しているのかもしれない。

カキノキの種子はタヌキのフンの内容物では最も大きな物体です。皮がとても固いので消化されずにそのままの形で出てきます。タヌキのフンは放置しておくとう昆虫や微生物によって分解されてしまうものですが、カキノキの種子はいつまでたっても形を残しています。種子は芽を出して成長するという役割を持っています。簡単に分解されてしまわないようしっかりとガードを固めているのです。

しかし、大きくて固いカキノキの種子をなぜタヌキは飲み込んでしまうのでしょうか。タヌキの食事の様子を観察してみると、よくかまずに飲み込んでいるように見えます。タヌキの歯はイヌとほぼ同じ形で、肉食向きのつくりです。人間のように「よくかんで、すりつぶして」とい

う構造にはなっていないのです。「適度にかみちぎって、飲み込む」というのがタヌキの食事スタイルなのでしょう。

競争相手はハクビシン

カキノキなど果物を好むのはタヌキだけではなくありません。ハクビシンも果物が大好きです。しかも運動能力の高い彼らは木を楽々と登ります。タヌキも木に登れるはずですが、実際には地面に落ちた実をもっぱら食べているようです。

実のなった樹木になにやらあやしい動物が登っていたら、タヌキかハクビシンか確かめてみてください。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>